

北海道東部厚岸沿岸低地の完新世バリアーシステムと海水準変動の復元

重野 聖之（茨城大学大学院理工学研究科）

堆積物の記録から海水準（海面）変動を探る

厚岸で採取された堆積物の記録（掘進長 61m の連続長尺ボーリング試料）を用いて、層相記載，粒度分析，貝殻遺骸群集分析，珪藻化石群集分析，AMS¹⁴C 年代測定を行い，それらを総合的に検討・考察した．その結果，現在から過去 1.4 万年までの海水準（海面）変動が求められ，以下の 3 点が明確となった．

- (1) 厚岸湾沿岸低地に後氷期海進が到達したのが 11,400 年前である．当時の海面の高さは現在より 50m 低かった．その後の後氷期海進によって，厚岸バリアーシステムが成立したのは 8,800 年前であった．
- (2) 厚岸低地においてバリアーシステムが現在も維持されている理由としては，5,500 年前から続く海面停滞の影響が大きい．そしてこの時期に厚岸湖のカキ礁も上げ潮三角州上に生成し始めたものと推測される．
- (3) 現在のバリアーシステムが地形的に明瞭であるのは，17 世紀の巨大地震以降の 1cm/年に達する急速な非地震性沈降による影響が大きい．

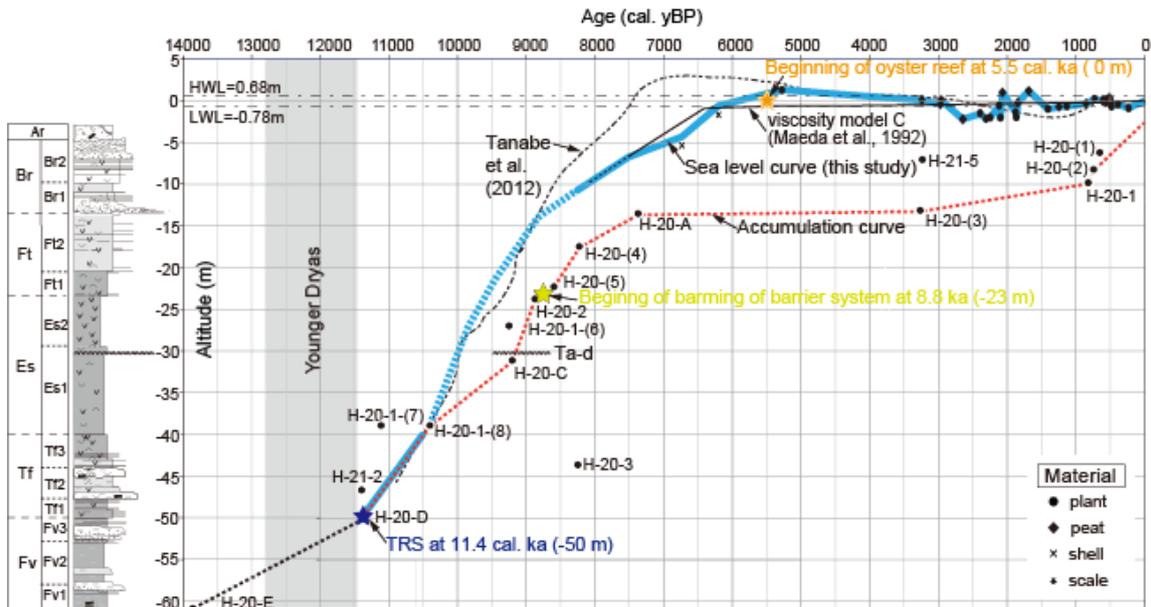


図. 厚岸沿岸低地の後氷期バリアーシステムにおける堆積速度曲線と海面変動曲線